

# 「地球の裏側、神秘の国ペルー」

経済学部企業経営学科  
上田 大夢

## ●● 経済産業省のインターンシップ派遣事業に挑戦



マチュピチュにて

私は経済産業省主催の2016年度「国際化促進インターンシップ事業」の派遣生に選抜され、ペルー国内最大手の食肉加工企業でのインターンシップに取り組みました。ゼミで磨いたリーダーシップとスペイン留学で鍛えた語学力を武器に、自分が世界でどこまで通用するのか挑戦したいという思いに駆られ、本事業への参加を決意しました。

派遣先では、ペルー政府と協力し、国内の畜産業を営む小規模企業の支援事業立ち上げに携わりました。ペルーでは、伝統的に家族経営の企業が多く、生産性や収益性に大きな問題を抱えていました。事業チームの一員になったものの、当初は専門知識が全く無く、何一つ戦力になることができませんでした。さらに、ラテン民族の文化への適応にも頭を悩ませました。

## ●● 怒らない、驚かない、絶望しない

とにかく知識と経験を蓄積するため、自社の飼育場視察や同僚の手伝いを繰り返し、上司に生産現場への出張を願い出しました。また、常にペルー人と過ごすことで、彼らの文化への理解を深めました。「怒らない、驚かない、絶望しない」という3原則を肝に銘じ、チームに貢献するため奮闘しました。低利子での融資サービスというファイナンス面での支援を提案し、自分の説明を聞いて経営者が興味を持ってくれた時は、全ての苦労が報われたように感じた瞬間でした。

派遣終了後には、ビジネスモデルのプレゼン大会に参加しました。ペルーでの経験から水不足解決事業を提案し、講師や他のインターン生から最高の評価を受けました。



帰国報告会でのプレゼンの様子

# 「後世に遺せアフリカの真珠～ソーシャルビジネス最前線～」

経済学部企業経営学科  
土川 貴之

## ●● ソーシャルビジネスとの出会い

「ソーシャルビジネス」この考え方を知ったのは、ゼミで Harvard Business Review の文献を読んでいた時でした。社会問題の解決をビジネスの中心に据えて、途上国や後進国への持続的な支援を可能にするというアイデアに、感銘を受けました。そして、フィリピンで3か月間の語学留学を終え、社会事業の現場を体感するため、ウガンダでの挑戦を決意しました。

## ●● 環境に優しい炭を売る ビジネスインターンシップに挑戦!

「アフリカの真珠」そう称されるウガンダは、緑に恵まれた美しい国です。しかし、燃料のほとんどを薪や炭に依存するこの国では、ここ10数年で森林面積が大幅に減少しています。

この問題を解決するため、派遣先の会社は生ごみから精製可能な環境に優しい炭を販売しています。研修では、その炭を売る営業職として働きました。

## ●● 骨太サムライ、困難を乗り越える

「とにかく成果を出せ」、研修開始直後、そう上司に言われ、単身で僻地に送り込まれましたが、会社の炭が流通していない地域での新規開拓は困難を極めました。

しかし、「何があっても絶対に撤退しない」という信念を頼りに、飛び込み営業を繰り返す中で、現地で最大の市場でブースを出展するチャンスをつかみました。そして、運良く100人以上に炭を売ることに成功しました。これをきっかけにどんどん販売数を増やし、最終月には、他の社員の2倍の炭を売ることができました。

この経験から、周囲の人々から、「骨太サムライ」というあだ名を拝命しました。



市場でブースを設営した時の一枚